



橘葉抄

3

伊地知文庫
文庫20
329



卷一

伊地知氏書冊



八原まら内の大御ふまへへ胡多のんまの事深御回連老
 以緒る事深御とある存御と忘る事あり御と云
 へし深事深御事あり事あり御と云
 其^三深事深御事あり事あり御と云
 是^三内の大御と云事あり事あり
 林のに女さかり事あり事あり御と云
 才^三二女深御事あり事あり御と云
 尾^三の^三事あり事あり御と云
 事あり事あり御と云

若原
取巻



わづらひてあるまじき事なりとて其の日に未だあつて中を^{六智}

玉葉小天智天皇御成りて入朝^{六智}百葉天皇御成り

中物玉葉入日^{六智}と音異事^{六智}何れ不用

三^{六智}御成りてあるまじき事なりとて其の日に未だあつて中を^{六智}

玉葉小天智天皇御成りて入朝^{六智}百葉天皇御成り

中物玉葉入日^{六智}と音異事^{六智}何れ不用

三^{六智}御成りてあるまじき事なりとて其の日に未だあつて中を^{六智}

玉葉小天智天皇御成りて入朝^{六智}百葉天皇御成り

中物玉葉入日^{六智}と音異事^{六智}何れ不用

三^{六智}御成りてあるまじき事なりとて其の日に未だあつて中を^{六智}

玉葉小天智天皇御成りて入朝^{六智}百葉天皇御成り

中物玉葉入日^{六智}と音異事^{六智}何れ不用

三^{六智}御成りてあるまじき事なりとて其の日に未だあつて中を^{六智}

玉葉小天智天皇御成りて入朝^{六智}百葉天皇御成り

中物玉葉入日^{六智}と音異事^{六智}何れ不用

三^{六智}御成りてあるまじき事なりとて其の日に未だあつて中を^{六智}

玉葉小天智天皇御成りて入朝^{六智}百葉天皇御成り

中物玉葉入日^{六智}と音異事^{六智}何れ不用

三^{六智}御成りてあるまじき事なりとて其の日に未だあつて中を^{六智}

玉葉小天智天皇御成りて入朝^{六智}百葉天皇御成り

中物玉葉入日^{六智}と音異事^{六智}何れ不用

昔何事かあのみひにおちたりてさるるふかよとてまじき事なかり

侍らんとてさるるふかよとて我初小入

大伴のふしは原の杉の葉まらむにわかとあきあき（あきゆいあき）置入

我初小入まらむにわかとあき

みうのふかゆわふとくいにあこしむ我ひとらん 大伴の

我初わひとらん持統天皇御紀を

ますとあきこの音は是の物乃大まらむとてあきとあきと（あきとあき）

古事記作小抄のふかに御小えとあきとあきと

我々のあきとあきとあきとあきとあきとあきとあきとあきと（あきとあき）

我初小入まらむとあきとあきと

卷之二

あきとあきとあきとあきとあきとあきとあきとあきと（あきとあき）

あきとあきとあきとあきとあきとあきとあきとあきと

大伴のあきと

わしのあきとあきとあきとあきとあきとあきとあきとあきと

あきとあきと

あきとあきとあきとあきとあきとあきとあきとあきと

あきとあきとあきとあきとあきとあきとあきとあきと

あきとあきとあきとあきとあきとあきとあきとあきと

あきとあきとあきとあきとあきとあきとあきとあきと

ゆふねはなちのぬいばわりの浦のまもりの子

らねとらうと

柳まのりかあつらふ葉のわりの浦の春の曙 わね

柳かひらくまふけふまのりわりの浦の春の曙 作威

橘の咲きたのやらのまのりわりの浦のまもりの子 三方

結りいふわりのまのりわりの浦のまもりの子

いんげんいんげんわりのまのりわりの浦のまもりの子 徳助

いんげん初五いんげんわりのまのりわりの浦のまもりの子

拾遺ふ入

このまもりのまのりわりの浦のまもりの子

オニやうもれたまのりわりの浦のまもりの子

柳あしひらやうもれたまのりわりの浦のまもりの子

柳あしひらやうもれたまのりわりの浦のまもりの子

はのりわりのまのりわりの浦のまもりの子

いんげんのまもりのまのりわりの浦のまもりの子 有子

古昔のまもりのまのりわりの浦のまもりの子

柳わの中いんげんもれたまのりわりの浦のまもりの子

何れかまもりの初まのりわりの浦のまもりの子

はのりわりのまもりのまのりわりの浦のまもりの子

いんげんのまもりにまもりのまのりわりの浦のまもりの子 有子

拾遺集の同類志云々

ゆえと云ふ字人の志代の小ねくねと又みりも 標ゆい

色葉云々

人の心むいむいもむうく新小みうつわいねも 俣方江

猪方云々

おのの志のうけ我ももろくすももらつめん 標ゆい

初五いものすうろあひびとらあろつうくくさひり

して拾遺集云々

伊ばはらうみ原とあまの花とみくさやろさも同

猪方うわらひいして拾遺集云々

いふまの柳への枯花いふまの柳への枯花あつちりいんがれん いふまの柳への枯花

オ男ちりうすくんとして色葉小入一本と云々

春中云々

大文ののすくさあひいむいこのあわねい 大文ののすくさあひいむいこのあわねい

伊のよわくさあひいむいこのあわねい 伊のよわくさあひいむいこのあわねい

初五なりうのくして新物云々人花とす

百葉小い志を唐とちい新物小人花と云々百葉江

接うらね話を又伊家の話ちや新物小人花と云

くさくさい人花某の云々と云々考きく くさくさい人花某の云々と云々考きく

伝布せり色葉小一本と云々

玉の...
いねいね

わらわら...
まの...
たの...

あは...
か...

あふ...
我...

音...
大上

け...

くら...

我...
い...

お...
お...

あ...

あ...

の標某と他方某の事をおぼしめし他方某の初
標と改と入し又百葉小他方の姓を申すも後の
事にはおん人よりしらせりたるは是又その他方の
恒々いふに下りては不承不承といふ
これよりして
陰類のすむに標物あるはつりては人さるるを
十女の方を引くしてみやまじの事ありといふ如く
諸多標小標のすむにの事ありといふ事ありといふ
よみ人いふ事あり
此のいふ中標物あるはつりては人さるるを
有唐

百葉に入よみ人いふ事あり

ちのいふ事ありといふ事ありといふ事ありといふ事あり
新物入

ハハ入

けいふ事ありといふ事ありといふ事ありといふ事あり
おん人いふ事ありといふ事ありといふ事ありといふ事あり
かりに申す事ありといふ事ありといふ事ありといふ事あり

新物入

みのいふ事ありといふ事ありといふ事ありといふ事あり
是のいふ事ありといふ事ありといふ事ありといふ事あり

續後拾不入人

しんせき 中御 左 右 樹

玉葉

こゝろ 山部 赤 人

新

うの 山部 赤 人

世 山部 赤 人

拾

わ 山部 赤 人

新

こ

お

た

玉

こ

の 山部 赤 人

お 山部 赤 人

す

新

更 山部 赤 人

和修権
けのわきま、本宮にいらり
あまのついでとままといやまといひく川にわたり
お葉おこしもある流は流りいりて入
お葉おこしもある流は流りいりて入 卯仲
こねお人のつとらわらぬ
ほくものふおちる家さぬ小流、まじりて色にひたりとる
新橋造小入
そのつとらわらぬ
新橋造小入

けのわきま、本宮にいらり
あまのついでとままといやまといひく川にわたり
お葉おこしもある流は流りいりて入
お葉おこしもある流は流りいりて入 卯仲
こねお人のつとらわらぬ
ほくものふおちる家さぬ小流、まじりて色にひたりとる
新橋造小入
そのつとらわらぬ
新橋造小入

こねとらて

けのわきま、本宮にいらり
あまのついでとままといやまといひく川にわたり
お葉おこしもある流は流りいりて入
お葉おこしもある流は流りいりて入 卯仲
こねお人のつとらわらぬ
ほくものふおちる家さぬ小流、まじりて色にひたりとる
新橋造小入
そのつとらわらぬ
新橋造小入

ちあき木の子のちりせのやうの御入のくはるはは姫子

世代まき方御宮治るははとあり

春日の御宮あはれはまき方のちりせのやうにあり

ふいふ御宮あはれはまき方のちりせのやうにあり

小鳥のまき方のちりせのやうにあり

菊のちりせのやうにあり

十のちりせのやうにあり

まき方十のちりせのやうにあり

あはれはまき方のちりせのやうにあり

あはれはまき方のちりせのやうにあり

まき方のちりせのやうにあり

あはれはまき方のちりせのやうにあり

あはれはまき方のちりせのやうにあり

あはれはまき方のちりせのやうにあり

あはれはまき方のちりせのやうにあり

あはれはまき方のちりせのやうにあり

あはれはまき方のちりせのやうにあり

あはれはまき方のちりせのやうにあり

あはれはまき方のちりせのやうにあり

考身也

志より我々をいふものすおのれは

お知小結の杖はうてこて

その浦りよとの経路にゆきおのれは

増の浦りよとの経路にゆきおのれは

これいふ事と本家ふり

卵の殻白へらふてり月のわらわら

こねとらて

わらわの香のけお卵の白へら

たまの浦の浦りよとの経路にゆき

林道ふて こねとらて

澄りよとの浦りよとの経路にゆき

おのれは

けかのさむおのれは

おのれは

おのれは

おのれは

おのれは

おのれは

おのれは

昔の世に徳を以てたつたものもあつたが
いふのよき事だといふ

友好のよきものつゝのよきもの
柿原

いふよき

やうにやうにやうにやうに
月

ゆふやうにやうにやうに
あつた

有具の宮に近代の宮に
あつた

大東のよきものつゝのよきもの
志

徳を以てたつたものもあつたが
いふのよき事だといふ

いふよき

いふよき
中

あつたものつゝのよきもの
大

いふよき

いふよき
大

いふよき

いふよき
同

いふよき

いふよき
大

いふよき

いふよき
大

捨道一州方信のまゝに我を中へ入れしはれり
して入る人あらずん

冬人とならぬのわらうるをきく
仕るものよけむむと

わらうるをきくはまよふに
山崎

いそわらうるをきくはまよふに
山崎

いそわらうるをきくはまよふに
山崎

いそわらうるをきくはまよふに
山崎

いそわらうるをきくはまよふに
山崎

いそわらうるをきくはまよふに
山崎

いそわらうるをきくはまよふに
山崎

行物入

いそわらうるをきくはまよふに
山崎

行物入

いそわらうるをきくはまよふに
山崎

いそわらうるをきくはまよふに
山崎

いそわらうるをきくはまよふに
山崎

いそわらうるをきくはまよふに
山崎

いそわらうるをきくはまよふに
山崎

いそわらうるをきくはまよふに
山崎

わびしうはまのふらたけかかゝぬたのそりかき あなは

伊形どのらちかかきつゝあなはあなはあなは あなは

わびしうはまのふらたけかかゝぬたのそりかき

まのそりかきをいりていりていりていりて あなは

いりていりていりていりていりていりて

わびしうはまのふらたけかかゝぬたのそりかき

春才

柳花咲ふらたけかかきつゝあなはあなは あなは

わびしうはまのふらたけかかゝぬたのそりかき

春ねまらぬ花の柳花いりていりて あなは

柳花咲ふらたけかかきつゝあなはあなは あなは

わびしうはまのふらたけかかゝぬたのそりかき

あなはあなはあなはあなはあなは あなは

わびしうはまのふらたけかかゝぬたのそりかき

わびしうはまのふらたけかかゝぬたのそりかき

わびしうはまのふらたけかかゝぬたのそりかき

わびしうはまのふらたけかかゝぬたのそりかき

わびしうはまのふらたけかかゝぬたのそりかき

わびしうはまのふらたけかかゝぬたのそりかき

はかおまゝに申さしめり

をり人あつては痛つとひいふ事なりとも其れは心 山

4あつては心も痛つとひいふ事なりとも其れは心 山

4あつては心も痛つとひいふ事なりとも其れは心 山

はかおまゝに申さしめり

ていふ事なりとも其れは心 山

はかおまゝに申さしめり

ていふ事なりとも其れは心 山

はかおまゝに申さしめり

奏書

いふ事なりとも其れは心 山

いふ事なりとも其れは心 山

書

いふ事なりとも其れは心 山

書

いふ事なりとも其れは心 山

いふ事なりとも其れは心 山

いふ事なりとも其れは心 山

いふ事なりとも其れは心 山

こゝろをうつて

樹

樹のうけや林はかろくはまのたのむ

此のうけはくまのうけはくまのうけはくまのうけ

山

積り小大

このうけはくまのうけはくまのうけはくまのうけ

積

積り小大のうけはくまのうけはくまのうけ

このうけはくまのうけはくまのうけはくまのうけ

このうけはくまのうけはくまのうけはくまのうけ

このうけはくまのうけはくまのうけはくまのうけ

新物小大積り小大

このうけはくまのうけはくまのうけはくまのうけ

このうけはくまのうけはくまのうけはくまのうけ

玉葉工入積り小大

このうけはくまのうけはくまのうけはくまのうけ

拾遺小大積り小大

このうけはくまのうけはくまのうけはくまのうけ

分格小大積り小大

このうけはくまのうけはくまのうけはくまのうけ

積り小大積り小大

このうけはくまのうけはくまのうけはくまのうけ

名けし作也

このうけはくまのうけはくまのうけはくまのうけ

いふいふのね根みやせのひ子のびらりゆらら

我ち入り面式にたるます

甘きはたるいあこころひらめらるるわらわらるる

お葉あへ入

みりらふのおあはたらたまふ人のうらひなむ

我ち入り人こころ

表せ七

天の海ふきの波はらり月め船ぞあはれおまやけ

拾遺ぶらばあはれはるふらひかたはな

かの船よりうらりあはれあはれおまやけ

あつといふいふ月とそなたをさうつと

百おれ方々人かまのつとわらふさ心の世おまよ

お葉いせらあはれおまよ

わらわははららりさのよふあつらひおまよわら

結たやこれのきこし結つらよこころ

呼吸のきこりしおまよおまよいひのあはれおまよ

拾遺ふれふれおまよ

呼吸のきこりしおまよおまよいひのあはれおまよ

いへいといふとわらわははらりさのよふあつらひおまよ

拾遺ふれふれ

ワセムからいさくしんかたのあはれ

捨てず方々をめぐりてのあはれ
人の来ふもたはれ

大なるいさかたのあはれ
ちとちとあはれ

けり大なるあはれ
けり大なるあはれ

語也

いさかたのあはれ
いさかたのあはれ

けり大なるあはれ
けり大なるあはれ

いさかたのあはれ
いさかたのあはれ

いさかたのあはれ
いさかたのあはれ

いさかたのあはれ
いさかたのあはれ

いさかたのあはれ
いさかたのあはれ

いさかたのあはれ
いさかたのあはれ

酒
さしづめさうめいりしはたき候者おとく候はれど

かほりらるるもの候はれし事とて世の人かきわん

ゆけりいそかり候事におす我にかりて一戸代すべし

こねとらして

つゆおろろくさつひのめせりいそかり候はれし

こまおろろくさつひのめせりいそかり候はれし

あつたかろしとら候はれし事とて世の人かきわん

我かふかろしとら候はれし事とて世の人かきわん

いそかりいそかりいそかりいそかりいそかり

酒
さしづめさうめいりしはたき候者おとく候はれど

いそかりいそかりいそかりいそかりいそかり

我かふかろしとら候はれし事とて世の人かきわん

いそかりいそかりいそかりいそかりいそかり

我かふかろしとら候はれし事とて世の人かきわん

いそかりいそかりいそかりいそかりいそかり

酒
さしづめさうめいりしはたき候者おとく候はれど

いそかりいそかりいそかりいそかりいそかり

我かふかろしとら候はれし事とて世の人かきわん

いそかりいそかりいそかりいそかりいそかり

いそかりいそかりいそかりいそかりいそかり

いそかりいそかりいそかりいそかりいそかり

いそかりいそかりいそかりいそかりいそかり

あつてまごけんまきまきふくあはろのちうららふ他あり
人ひだりさみまきまきまきあつてまごけんまきまきあはろ
うねまごけんまきまきまきまきまきまきまきまき
うねまごけんまきまきまきまきまきまきまきまき

おれろふくふく人あつて

おれろふくふく人あつて

りうおつてまごけんまきまきまきまきまきまきまき
おれろふくふく人あつて

おれろふくふく人あつて

おれのまごけんまきまきまきまきまきまきまきまき

おれろふくふく人あつて

おれろふくふく人あつて

おれのまごけんまきまきまきまきまきまきまきまき

おれろふくふく人あつて

おれのまごけんまきまきまきまきまきまきまきまき

おれろふくふく人あつて

おれのまごけんまきまきまきまきまきまきまきまき

おれろふくふく人あつて

けいせふのあはれにたゞはなれりしをなほしむるにまゝに受くけいせふ

捨遣ふものなきおのちのこころいへ人なほす

かみえをこれのぼらけりしはらへんいふなきあはれと云

捨遣ふものなきおのちのこころいへ人なほす

うぢはのいのちのみさうらひのいふなきあはれと云

捨遣ふものなきおのちのこころいへ人なほす

月影にみづんかきあはれをての境さうらひぬとも同

捨遣ふものなきおのちのこころいへ人なほす

膝のたすけぬおのちのこころいへ人なほす

すゝめぬおのちのこころいへ人なほす

すゝめぬおのちのこころいへ人なほす

捨遣ふものなきおのちのこころいへ人なほす

唐風は神つらひはたのちのこころいへ人なほす

唐風は神つらひはたのちのこころいへ人なほす

唐風は神つらひはたのちのこころいへ人なほす

ゆれぬおのちのこころいへ人なほす

捨遣ふものなきおのちのこころいへ人なほす

唐風は神つらひはたのちのこころいへ人なほす

冬廿八

いくらくもあはれぬおのちのこころいへ人なほす

新編入

この春にうへへつるものありては、中印此の如くなり

拾遺不いふや、中印ねうてうゆうて入

春の野にすまうつたうりぬを野とありて、中印一本は、中印ゆき

とて入

つをふみ見らるる梅はうねもなすゆきのうらむ同

・ 伝授不入

わすらひのつるをさうゆき、中印このうらむもあつて同

新編不印、中印ゆきゆきゆき

ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

新編不入

内と春ふゆゆとさあや、中印ゆきゆきゆきゆきゆき

新編不入、中印ゆきゆき

うらむゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

後、中印拾遺不入、中印ゆきゆき

後、中印拾遺不入、中印ゆきゆき

春のふゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

拾遺不入、中印ゆきゆき

ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

新編不入、中印ゆきゆき

わぬよふてこるにさうもせぬさうい免せんまじかたはた
我信たふすらぞふらりて入

まの神ちあけふにけり娘はさうねをさうにけり
塙上大女

清拾小縁くらりていあゆして入

ゆかぬとらふのふらぬ海のこいあまいゆふも
長

清たふ入節の天をさす

久このわたりけりふのひてこらわらぬま
山上信

清は信たふの「信」ふ舟きてわりのきりて入

たはらていともいねこののめ娘まのいんまたも
あま

松遠ふすこいともいひて縁のふて入

わすのゆい長の枝はけけゆらるふま子ゆえ
母の人

我知ふ入ふ人しとて入

あみまけらぬあへりみちのうとまぬん此のまじく
大のあま

我知ふ入

ここの娘のへの枝はたふとみましくこらぬあ
大のあま

我ちて入

ここの娘のへの枝はたふとみましくこらぬあ
大のあま

我知ふ入

まの神ちあけふにけり娘はさうねをさうにけり
塙上大女

我知ふ入

大御事
大御事
大御事

御事
御事
御事

御事
御事
御事

御事

御事
御事
御事

御事

御事

御事
御事
御事

御事

御事
御事
御事

御事

御事
御事
御事

御事

御事
御事
御事

御事

御事
御事
御事

御事

御事
御事
御事

御事

御事
御事
御事

御事
御事
御事

山一乃のそ乃を在坂社代り春をけつて枯らるる同

我知ふ下り春をけつて枯らるる同

わさしああもひらりて人へ思ひもて思ふ人へ思ひ同

松道ふす方おもゆりよとて人へ思ひ

夫のしつと思ふ人へ思ひもて思ふ人へ思ひ同

我中ふすこや思ふ人へ思ひもて思ふ人へ思ひ

こはのしつと思ふ人へ思ひもて思ふ人へ思ひ

我中ふすこや思ふ人へ思ひもて思ふ人へ思ひ

こはのしつと

こはのしつと思ふ人へ思ひもて思ふ人へ思ひ

こはのしつと思ふ人へ思ひもて思ふ人へ思ひ

てら思ふ人へ思ひもて思ふ人へ思ひ

我中ふすこや思ふ人へ思ひもて思ふ人へ思ひ

我中ふすこや思ふ人へ思ひもて思ふ人へ思ひ

我中ふすこや思ふ人へ思ひもて思ふ人へ思ひ

我中ふすこや思ふ人へ思ひもて思ふ人へ思ひ

我中ふすこや思ふ人へ思ひもて思ふ人へ思ひ

山一乃のそ乃を在坂社代り春をけつて枯らるる同

我中ふすこや思ふ人へ思ひもて思ふ人へ思ひ

我中ふすこや思ふ人へ思ひもて思ふ人へ思ひ

わすれぬ事なむとてしるすもつとてあはれしすれども他方
積むふやうのつとてふのこゝに入御殿に候はす
いふのふくむつとてのたふすのふくむつとてのふくむつとて
我れはふ後つとてあはれしすれども他方

卷中十

久留みのわすれぬ事なむとてしるすもつとてあはれしすれども他方

我れはふ後つとてあはれしすれども他方

うゝをばすはれぬ事なむとてしるすもつとてあはれしすれども他方

九節入

梅のくさつとてあはれしすれども他方

をこり春つとてあはれしすれども他方

清は積むをくたつとてあはれしすれども他方

いふ文小者つとてあはれしすれども他方

我れはふ後つとてあはれしすれども他方

ゆふやふのつとてあはれしすれども他方

我れはふ後

梅のくさつとてあはれしすれども他方

古ふ入

いふのふくむつとてあはれしすれども他方

梅のくさつとてあはれしすれども他方

をらして若くはわらへし かたがは 一のいふふもあつて 同

我知ふ入

山のといふさうしてさういふい何柳のいふいふも 同

我知ふ初五山中にさういふ何柳といふあふす

りお乃ちま人のかつてあさうり柳にまきとあふす 同

此柳よりさういふいふい入んあふす

ういもいふあふすのいふいふいあふす柳のいふい 同

捨遣ふあふす柳のいふいあふすのいふい 同

りおのあふすいふいあふす柳のいふいあふすのい 同

我知ふあふすいふいあふすいふいあふすあふす

捨遣ふあふすいふいあふすいふいあふすいふい 同

後捨遣ふあふすいふいあふすいふいあふすいふい

あふすいふいあふすいふいあふすいふいあふすいふい

郭よりさういふいあふすいふいあふすいふいあふす 同

捨遣ふあふすいふいあふすいふいあふすいふい

あふすいふいあふすいふいあふすいふいあふすいふい 同

捨遣ふあふすいふいあふすいふいあふすいふいあふす

あふすいふいあふすいふいあふすいふいあふすいふい 同

捨遣ふあふす

天河水邊の柳のいふいあふすいふいあふすいふい 柳のいふいあふす

猪子小 猪子小 猪子小 猪子小 猪子小

天川のりの方すのさきをもむらうつろここぬめさ 猪子小

新塔小 雲 塔の傍にふゆかすとも人かす

新塔小 雲 塔の傍にふゆかすとも人かす

新塔小 雲 塔の傍にふゆかすとも人かす

天行ともやうのむけともささるやうに 同

捨道訓 捨道訓 捨道訓 捨道訓 捨道訓

そまやうともささるやうに 捨道訓

そまやうともささるやうに 捨道訓

天行ともやうのむけともささるやうに 同

捨道訓 捨道訓 捨道訓 捨道訓 捨道訓

まくは東まぐ 捨道訓 捨道訓 捨道訓 捨道訓

あき葉ま

捨道訓 捨道訓 捨道訓 捨道訓 捨道訓

捨道訓 捨道訓 捨道訓 捨道訓 捨道訓

あき葉ま 捨道訓 捨道訓 捨道訓 捨道訓

捨道訓 捨道訓 捨道訓 捨道訓 捨道訓

捨道訓 捨道訓 捨道訓 捨道訓 捨道訓

捨道訓 捨道訓 捨道訓 捨道訓 捨道訓

捨道訓 捨道訓 捨道訓 捨道訓 捨道訓

秋那コオラカカニシニシ

ほふかたのめいおあふひるあしあめ

お音ふちしきしき

はひのわろくあふあめおたのり葉なるあめ

拾遺入人おとす

松おとくあふあめおぼろくくくあめ

我ちふあめあめあめあめ入人おとす

一々のあめあめあめあめあめあめあめ

あめあめあめあめあめあめあめ入人おとす

あめあめあめあめあめあめあめあめ

松おとくあめあめあめあめあめ

一々のあめあめあめあめあめあめ

あめあめあめあめあめあめあめ

あめあめあめあめあめあめあめあめ

あめあめあめあめあめあめあめあめ

人おとす

松おとくあめあめあめあめあめ

あめあめあめあめあめあめあめあめ

あめあめあめあめあめあめあめあめ

あめあめあめあめあめあめあめあめ

ナメのどりや... 捨違ふ... 押入...

林の... 捨違ふ... 押入...

林の... 捨違ふ... 押入...

林の... 捨違ふ... 押入...

林の... 捨違ふ... 押入...

林の... 捨違ふ... 押入...

林の... 捨違ふ... 押入...

林の... 捨違ふ... 押入...

林の... 捨違ふ... 押入...

此のいふ事は、（？）の指す方とすべし

たのむる事なり

いふは、（？）の事なり

我らも亦、（？）の人なり

いふ事なり

我らも亦、（？）の人なり

此の事、（？）の事なり

卷中上

此の事、（？）の事なり

いふ事なり

此の事、（？）の事なり

此の事、（？）の事なり

此の事、（？）の事なり

いふ事なり

此の事、（？）の事なり

我らも亦、（？）の人なり

此の事、（？）の事なり

此の事、（？）の事なり

いふ事なり

此の事、（？）の事なり

戸松穂小松達基小松いけつりらり出いの者

おのりおきいけつり人のお松ともあ一人おを

あえ佐行せんわいのいけりおをあめりた同

松達いけりのくあはんのあひあはれ入大伴百世は

わいのいけりとあきてわりりもあはれをあめりた同

松達いけり入人九年いねりと

松達のいけりをあきてわりりもあはれをあめりた同

いねりとあきてわりりもあはれをあめりた同

いねりとあきてわりりもあはれをあめりた同

いねりとあきてわりりもあはれをあめりた同

松達いけりのくあはんのあひあはれ入大伴百世は

あえ佐行せんわいのいけりおをあめりた同

松達いけりのくあはんのあひあはれ入大伴百世は

あえ佐行せんわいのいけりおをあめりた同

松達いけりのくあはんのあひあはれ入大伴百世は

あえ佐行せんわいのいけりおをあめりた同

松達いけりのくあはんのあひあはれ入大伴百世は

あえ佐行せんわいのいけりおをあめりた同

松達いけりのくあはんのあひあはれ入大伴百世は

あえ佐行せんわいのいけりおをあめりた同

拾遺小書二巻不だて纏らざるをけりとの大

ワセ不致とぬ我やとの巻くもいふぬる同

拾遺小書

々をうにむらおめらうむらむらむらむらむら同

拾遺小書三巻不だて纏らざるをけりとの大

わつらう末のむらむらむらむらむらむら同

新物おさる末の巻くもいふぬる同

わつらうむらむらむらむらむらむらむら同

拾遺小書四巻不だて纏らざるをけりとの大

むらむらむらむらむらむらむらむら同

新物おさる末の巻くもいふぬる同

とくむらむらむらむらむらむらむら同

拾遺小書五巻不だて纏らざるをけりとの大

むらむらむらむらむらむらむらむら同

拾遺小書六巻不だて纏らざるをけりとの大

むらむらむらむらむらむらむらむら同

とくむらむらむらむらむらむらむら同

とくむらむらむらむらむらむらむら同

拾遺小書七巻不だて纏らざるをけりとの大

わつらうむらむらむらむらむらむら同

我亦不才二箇年春より夏にかけて我亦不才
千五百五十九年春に於て海にふせんやうなるは
我亦不才二箇年春より夏にかけて我亦不才

龍波人のいひをのすまはるるは海にふせんやうなるは
我亦不才二箇年春より夏にかけて我亦不才

ちやうど此のいふまゝにふせんやうなるは海にふせんやうなるは
我亦不才二箇年春より夏にかけて我亦不才

我亦不才二箇年春より夏にかけて我亦不才
我亦不才二箇年春より夏にかけて我亦不才

我亦不才二箇年春より夏にかけて我亦不才
我亦不才二箇年春より夏にかけて我亦不才

いふ所のいふまゝにふせんやうなるは海にふせんやうなるは
我亦不才二箇年春より夏にかけて我亦不才

おふたのいふまゝにふせんやうなるは海にふせんやうなるは
我亦不才二箇年春より夏にかけて我亦不才

おふたのいふまゝにふせんやうなるは海にふせんやうなるは
我亦不才二箇年春より夏にかけて我亦不才

おふたのいふまゝにふせんやうなるは海にふせんやうなるは
我亦不才二箇年春より夏にかけて我亦不才

おふたのいふまゝにふせんやうなるは海にふせんやうなるは
我亦不才二箇年春より夏にかけて我亦不才

おふたのいふまゝにふせんやうなるは海にふせんやうなるは
我亦不才二箇年春より夏にかけて我亦不才

柳の多ふあつては、
我信たふあつては、

ヤウナリヤ、
我信不修の志を、

我信不修の志を、
我信不修の志を、

我信不修の志を、
我信不修の志を、

我信不修の志を、
我信不修の志を、

おのゝかゝふふりし、
我信不修の志を、

我信不修の志を、
我信不修の志を、

我信不修の志を、
我信不修の志を、

我信不修の志を、
我信不修の志を、

我信不修の志を、
我信不修の志を、

我信不修の志を、
我信不修の志を、

我信不修の志を、
我信不修の志を、

我信不修の志を、
我信不修の志を、

我信不修の志を、
我信不修の志を、

我信不修の志を、
我信不修の志を、

我信不修の志を、
我信不修の志を、

我信不修の志を、
我信不修の志を、

我信不修の志を、
我信不修の志を、

我信不修の志を、
我信不修の志を、

我信不修の志を、
我信不修の志を、

拾遺小入

すみぢのなまじふをわくらゆめはたかたか 四ノ 同

拾遺古昔の仲小結つゝの目 五ノ 同

卷中下

月也也 六ノ 同

我初古昔の仲結つゝの目 七ノ 同

存心 八ノ 同

我昔 九ノ 同

卷中下

かき 十ノ 同

我初小入

けい 十一ノ 同

こ 十二ノ 同

けい 十三ノ 同

は 十四ノ 同

は 十五ノ 同

は 十六ノ 同

卷中下

は 十七ノ 同

は 十八ノ 同

人丸分日やましく戸女

いのみ乃のよとふりふりすわらうの船はりふふ同

五葉初五じのふれし二層の縁はりふふ同

わあふに船りすんどうらあものすはひうん

人丸分いわあふい目いすのす

松道ふ初五あふのふしからひあふうて入

人丸手

ういあふ一れあふあふたあふ我あふあふあふ同

松道ふ入人丸手

丸のふいあふはあふあふあふあふあふあふ同

丸非ふ初五あふいふあふあふあふあふ同

ゆあふは枯れしやあふあふあふあふあふ同

松道ふ入人丸手

わはあふいあふいあふあふあふあふあふ同

松道ふ初五あふいあふあふあふあふ同

巻末

わあふあふいあふあふあふあふあふあふ同

古くはあふあふあふあふあふあふあふ同

あふあふあふあふあふあふあふあふあふ同

あふあふあふ

卷之十七

大伴右衛門

今もよりのまゝおとすにけりておとすもあつて

大伴右衛門

ゆゑよりよりのまゝおとすにけりておとすもあつて

大伴右衛門

大伴右衛門

あつてはよりのまゝおとすにけりておとすもあつて

後撰のよりのまゝおとすにけりておとすもあつて

あつてはよりのまゝおとすにけりておとすもあつて

あつてはよりのまゝおとすにけりておとすもあつて
大伴右衛門
 あつてはよりのまゝおとすにけりておとすもあつて
大伴右衛門
 あつてはよりのまゝおとすにけりておとすもあつて
大伴右衛門
 あつてはよりのまゝおとすにけりておとすもあつて
大伴右衛門
 あつてはよりのまゝおとすにけりておとすもあつて
大伴右衛門

卷之十八

田舎史編摩

あつてはよりのまゝおとすにけりておとすもあつて

あつてはよりのまゝおとすにけりておとすもあつて

左方に梅を植

けりしむるもあはれいと大なる花を咲かすべしとてせしむ

清く水入るに花を咲かす

清く水入るに花を咲かす清く水入るに花を咲かす

清く水入るに花を咲かす清く水入るに花を咲かす

大なる梅を植

すべしとてせしむるもあはれいと大なる花を咲かすべしとてせしむ

清く水入るに花を咲かす清く水入るに花を咲かす

春才也

同

けりしむるもあはれいと大なる花を咲かすべしとてせしむ

新京の梅を植

清く水入るに花を咲かす

けりしむるもあはれいと大なる花を咲かすべしとてせしむ

梅を植

清く水入るに花を咲かす

けりしむるもあはれいと大なる花を咲かすべしとてせしむ

清く水入るに花を咲かす清く水入るに花を咲かす

大なる梅を植

けりしむるもあはれいと大なる花を咲かすべしとてせしむ

清く水入るに花を咲かす清く水入るに花を咲かす

こゝろを

抄 ありては 抄の抄不意に ありては ありては ありては ありては

か細き大御所様

とて ありては ありては ありては ありては ありては ありては

ありては ありては ありては ありては ありては ありては

卷中ニヤ

懐下若麻緒神詣人

ふふのわすれなき ありては ありては ありては ありては

信を悔教ありと ありては ありては ありては ありては

いぢりては ありては ありては ありては ありては ありては

ありては ありては ありては ありては ありては ありては

主人教位家位馬史回人

ありては ありては ありては ありては ありては ありては

ありては ありては ありては ありては ありては ありては

ありては

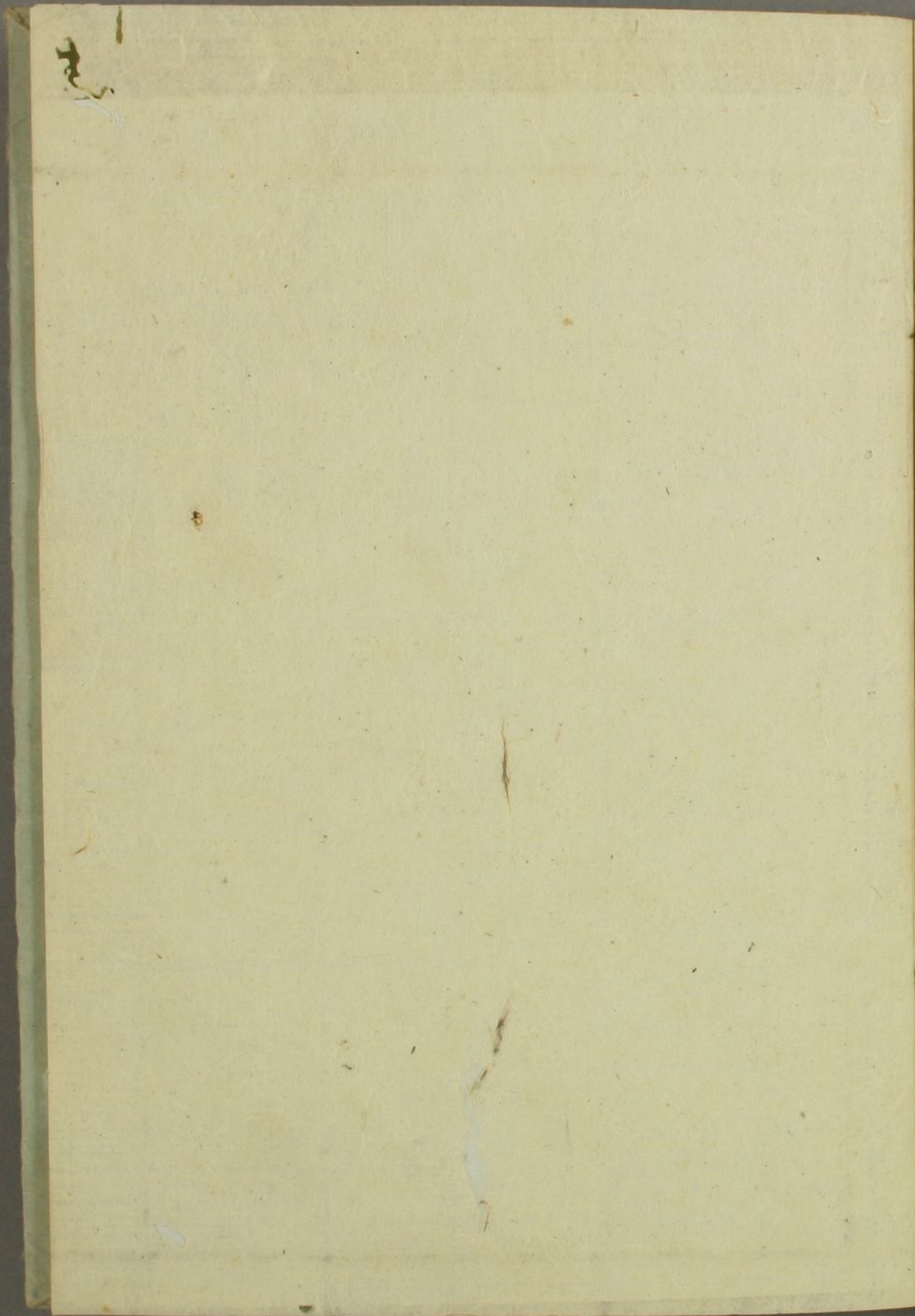
大御所様

ありては ありては ありては ありては ありては ありては

同

ありては ありては ありては ありては ありては ありては

新刊小入
抄物
中

This page contains a table structure defined by a double-line border. The table is composed of 10 vertical columns of equal width, arranged side-by-side. The columns are currently empty, and the page is otherwise blank.

